

水道事業と教育行政について

青木 一夫 議員

質問 水は命と言われます。

本市にとって命の水である地下水は、他に誇れる資源

であります。水道事業の広域化を控え、水道管整備の進捗状況について、お伺いします。

また、本市の一部の地区では、利根川の表流水を混合してから水道水がおいし

くなくなったとの声を聞きますが、その認識と対策について、お伺いします。

答 水道管の総延長は、今年度末には548・9kmとなり、概ね館林から大阪までの距離になります。老朽管は52・1kmで、全体の9・5%にあたり、来年度10・7kmを整備予定です。

第三浄水場の水道水は利

根川の表流水を原水としていることから気温の影響を受けやすく、夏場の水温がおいしい水の目安である20度を超えるためだと考えております。今年度より地下水を原水とする水道水を第二浄水場から第三浄水場に送るための水道管工事を進めており、表流水を地下水と混ぜることでよりおいしい水の供給を図ります。

質問 本市は昭和37年から平成16年までに6つの都市

宣言をしています。文教

都市宣言をしていない理由について、お伺いします。

答 市民憲章や総合計画において、文化を高めること等を定めているため、改めて宣言はしておりませんが、今後は市長と教育委員、教育長で構成する「総合教育会議」等で協議してまいりたいと考えております。

いか、お伺いします。
答 算数・数学科の指導において習熟度に応じたクラス編成をしております。一貫校については、本市の中学校は市立、高校は県立と私立のため、設置は困難な状況にあります。

特区の申請は総合的に検討していきたいと考えます。
要望 タブレット端末を導入して、科目によっては良い結果が出ておりますので、送信を有線から無線へ切りかえることを要望します。

食文化都市とまちづくりについて

篠木 正明 議員

質問 先日、まちづくりシンポジウム「食文化都市の魅力」が開催されました

が、私も食文化都市という観点でまちづくりを考えるといろいろな可能性が広がると感じました。そこでお尋ねしますが、食文化都市館林の魅力とは何なのか、お答えください。

答 本市には、日清製粉(株)や正田醤油(株)など歴史と伝統のある企業があります。

このような食品企業が本市の歴史と文化そのものになっ

あり、大きな魅力だと考えております。また、麺文化の発信という点では、麺「1グランプリ」やうどんの里振興会の活動などがあります。

質問 よく地域ブランドと

言いますが、低農薬や無農薬、有機栽培など館林の農産物は安全で美味しいというイメージをつくって、それを使った食品加工品を普及していく必要があると思います。また、製粉ミュージアムや正田記念館、工場見学などを組み入れた観光

ルートの紹介など観光面からのアプローチも必要だと思います。そう考えると、食文化都市の魅力を生かしたまちづくりによって、食品産業だけではなく、農業や観光に広がっていく夢のあるまちづくりができる

と感じていますが、市長の

考えをお聞かせください。
答 農業との連携が必要との指摘はそのとおりだと思います。館林の農産物の質を高めて、ブランド競争に負けないことも大事であ

ります。併せて、農業経営を安定化させる上で六次産業化も大事な道筋でないかと考えております。農産物の低農薬や無農薬など、この地域の食品の安全性について自信を持ってアピールできる生産体制を早くつくっていききたいと考えております。また、正田記念館や製粉ミュージアムも一つの観光資源でありますので、上手に活用しながら、食のまちを全国にアピールしていきたいと考えております。